

下野市立南河内第二中学校

平成29年度

第1号

H29.4.17

発行者
上野 保久

校長室だより

平成29年度が始まりました。3月に4人の先生方とお別れし、4月に4人の先生方をお迎えしました。第二中の良さを更に伸ばすためにも、新体制で、今年も教職員が一丸となって第二中の教育に取り組みたいと思います。今年度も、ご協力よろしくお願ひします。



1 平成29年度校内組織

今年度は、36人の教職員および6人の学校医・学校薬剤師の先生方でスタートを切りました。1年間、ご支援ご協力、よろしくお願ひいたします。

申し訳ありませんが、省略いたします。

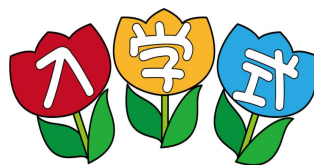


2 学校評議員の皆さまです。

本校の教育が充実し更に発展するために、学校運営に対してご意見をいただく5人の学校評議員の皆さまです。それぞれの方々が地域のために要職につかれ、ご活躍中です。入学式、体育祭、夏椿祭、卒業式等の学校行事の他、授業参観などにもご来校いただき、学校の様子をご覧いただきます。よろしくお願ひいたします。

申し訳ありませんが、省略いたします。

3 始業式・入学式に臨んで



始業式に『一年の抱負』を代表生徒が発表してくれました。

2年生 M・Nさん

3つの目標を立てました。①学習について「学習の時間を増やして授業を大切にする。受験を意識してその準備も始める。」②生活面について『1年生の手本となるような行動をしていきたい。』③ピアノについて「自分で頑張ろうとしているピアノの練習をたくさんして、多くのコンクールに挑戦したい。」というような抱負を述べました。



3年生 T・Kさん

「最上級生として、後輩の皆さんの手本となる態度で、あらゆる場面で引っ張っていくという意識をもって実践すること。常に『二中の顔』になることを意識して生活していきたい。そして、自分の勉強についても、しっかりと目標を持って地道な努力を続けていきたい。」というような抱負を述べました。

入学式では新入生代表の『誓いの言葉』、在校生代表の『歓迎の言葉』がありました。

新入生代表『誓いの言葉』のA・Aさんが

「これから始まる中学校生活に期待し心を弾ませている一方、緊張や不安もあるが、助け合い、協力し合いながら乗り越えていきたい。東京オリンピックの年に卒業を迎える自分たちは、二中で多くのことを学び成長し、将来国際化に向かう日本で活躍できるような人になりたい。」という意欲に満ちた誓いの言葉を述べました。



在校生代表 3年生 N・Yさんの『歓迎の言葉』

「これから過ごしていく中で、うまくいかないこともあるかも知れないが、悩まないで、困ったことがあったら遠慮なく相談してほしい。勉強と部活動を両立させ、学校行事にも意欲的に取り組みましょう。だれにもない自分らしさを探して進んでいってほしい。」というような新入生への期待や励まし・応援の言葉を述べ、新入生を安心させました。

教育委員会『告辞』では、

池澤 勤教育長様から

「一人一人が、下野市の教育目標である『あたり前のことを、あたり前にやる』ことを実践し、勉強や運動、部活動、地域活動に真剣に取り組み、様々なことにチャレンジしてほしい」「自分の考えを言葉で表現する力と、相手の気持ちを理解しようと努める姿勢をもってほしい」という期待と励ましのお言葉をいただきました。

私も始業式の『校長の話』と入学式の『式辞』の中で、4つの望むことを話しました。どのような中学生になってほしいかを述べることで、一人一人の意識が高まることを願いました。

○ 個人のプラスを更にプラスにし、中学校生活を有意義にするためのお願い

- 1 『セルフコントロール』ができる生徒になってほしい。
- 2 『授業を大切にする』生徒になってほしい。
- 3 1年後の自分がどのような自分になっていきたいかを考え、そうなるための『努力をする』生徒になってほしい。
- 4 『愛校心』をもってほしい。



校長室の窓から

○ 1学年の学年朝会を参観しました。学年主任のN先生が『今年の卒業式は感動的な卒業式でした。泣いている3年生もたくさんいました。なぜ、泣いたのでしょうか?』と質問しました。指名された男子生徒は、すぐに答えました。『『愛校心』からだと思います。』さらに、「具体的にはどのようなことをしたと思いますか?』という問いに、「勉強や運動など何事にも一生懸命に取り組んだのだと思います。」と答えました。『愛校心』という言葉が出た瞬間、「ああ入学式の時のお願いをしっかりと聞いてくれていたのだな」と思いました。

学年主任のまとめの言葉がすばらしかったです。「その時だけ頑張ったのでは涙は出ません。3年間一生懸命に頑張ったから涙が出たのですね。感動は、一生懸命から生まれるのです。」